# 八戸が培ってきた伝統で彩る魅力と賑わい

8 はちのへ **八戸**

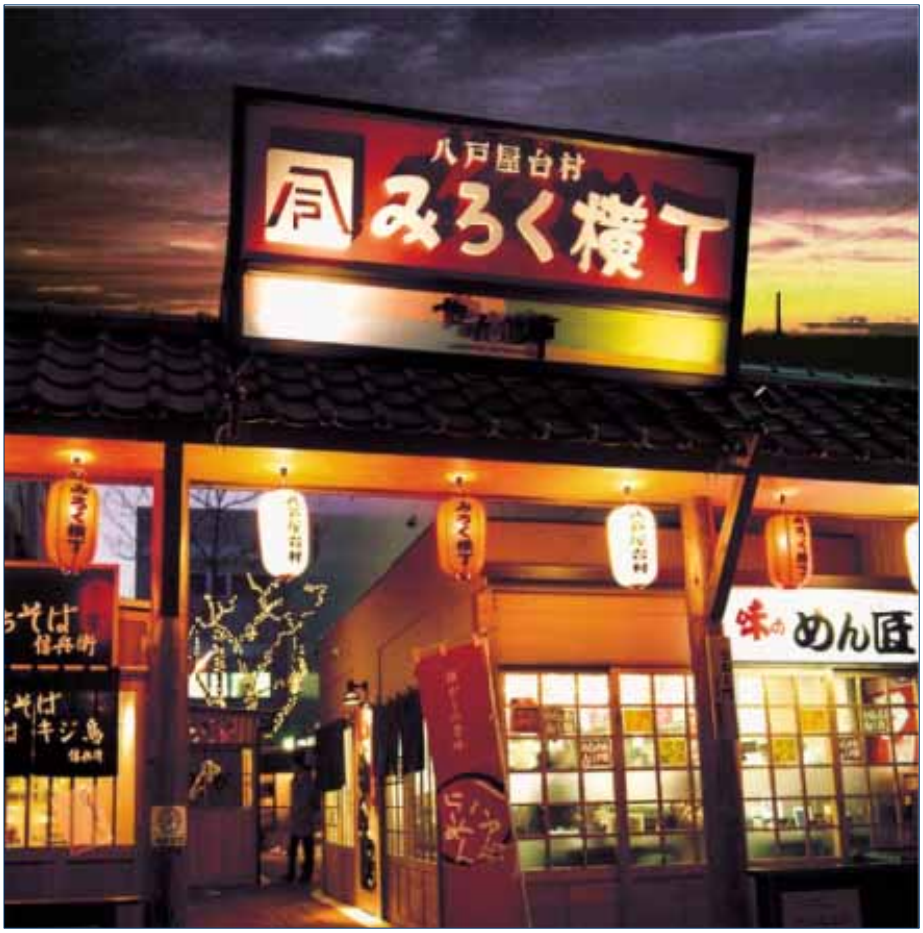
（青森県八戸市）

## 注目 ポイント ！

○ 地域に根ざした文化を最大限に活かし、観光地へ。

○ 住民の発意を行政が支援し、協働で観光振興を推進。

**八戸市観光入込客数が約312万人から約458万人に！**
**（平成13年） （平成16年）**




八戸屋台村「みろく横丁」

### ◇◇ コラム ◇◇

地域循環型社会を目指し、平成8年日本初のリサイクル資料館「包」パオを開館、翌年に八戸エコ・リサイクル協議会を設立する。

また、平成14年9月に八戸屋台村「みろく横丁」を運営する有限会社北のグルメ都市の代表取締役に就任し、環境対応型屋台村を開設し地域活性化に貢献している。

このような活動を経て「みろく横丁」が観光振興並びに環境対応型まちづくりにおける先進的な地域と認識されるようになった。



地域循環型社会を目指す
中居　雅博氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成13年（2001） | 屋台村構想始まる。 |
| 平成14年（2002） | 日本初環境対応型屋台村「みろく横丁」がオープンする。 |
| 平成15年（2003） | みろく横丁がリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞する。 |
| 平成16年（2004） | みろく横丁屋台村役場が設置される。<br>はちのへ海フェスタ実行委員会が設立される。 |
| 平成17年（2005） | 八戸三社大祭「まつりさかだり隊」が発足する。 |
| 平成18年（2006） | 新規起業者育成のため屋台村がリニューアルされる（25店舗）。<br>八戸横丁連合協議会が設立される。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み



屋台村役場

### 昭和30年代風の店作りで郷土料理を提供

いろんな人が自然に集まり、何か楽しいこと、面白いことを始めたい。そんな情熱がカタチになったのが八戸屋台村「みろく横丁」。自然の恵みにあまり手をかけず、懐かしくもてなしの気持ちがいっぱいの料理を提供し、賑わいを創出。横丁中央には観光案内所「屋台村役場」が設置され、飲食店情報を掲示するだけでなく、市内周辺観光地等の情報も提供。

また、全てをリサイクルしゴミを出さない工夫をしている他、横丁全域をバリアフリー化するなど環境・福祉面でも社会的ニーズに対応。

平成16年には、みろく横丁の提案で「全国屋台村連絡協議会」を設立。他県より「みろく横丁」を視察したいという申し込みも多数あり、地域づくりに大きく貢献する手段として全国より注目。


ご当地グルメ「せんべい汁」

### 八戸三社大祭「まつりさかだり隊」

「まつりさかだり隊」は大祭の活性化を目的に八戸青年会議所が呼びかけ発足。

祭りに関する様々なアトラクションを盛り込んだ「テーマパーク」の企画や、山車組の情熱と努力を市民みんなで讃え共に燃焼する空間の創出、また祭りへ新たな魅力を加える提案型企画など、独自の取り組みにより、市民参加型の団体として祭りを盛り上げている。


八戸三社大祭

### はちのへ海フェスタ

市民団体が中心となり、八戸の「海」の活用とPR、体験型観光の開発、海の文化の再確認、海に親しむまちづくり、海を活かした観光交流の推進を目的とし、地域に根ざした郷土色豊かな幾つかの既存イベントを、一つの大きなフェスティバルとして一体的に展開。

観光客が複数のイベントをまとめて体験できるよう各イベントの開催日程を調整し、イベント会場間の移動交通手段として、陸は循環バスで、海は船で行き来できるよう調整。観光客増に貢献。


フェスティバル

**問い合わせ先**

○八戸市産業振興部観光課
Tel：0178－46－4040　http://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/
○八戸屋台村「みろく横丁」㈲北のグルメ都市
Tel：0178－28－0815　http://www.36yokocho.com/

## 立佞武多（たちねぷた）の復活による観光振興

# 9 ごしょがわら 五所川原

（青森県五所川原市）

### 注目 ポイント ！

○ 高さ20m超の巨大ねぷた（立佞武多）を復活させ、全国的な観光地へ。
○ 市民、行政が一体となった取り組みで観光振興を推進。

**五所川原立佞武多客入数が約66万人から約169万人に！**
**（平成10年） （平成17年）**




勇壮な「立佞武多」

### ◇◇ コラム ◇◇

平成5年、明治時代のねぷたの台座の設計図が発見された翌年、五所川原青年会議所30周年記念事業の一環として市民劇団「樵の音」（団長 岩谷勇幸）が結成され、劇中で高さ7mのねぷたを復元した。これをきっかけに「立佞武多復元の会」が結成され、巨大ねぷたが蘇った。

岩谷氏は、高さ20mの巨大ねぷたを復活させた「立佞武多復元の会」の一員であり、現在は、五所川原市の観光拠点施設として、また市民交流施設として中心市街地活性化に貢献している立佞武多の館の館長として、地域活性化、観光振興に活躍している。



立佞武多の館 館長
岩谷 勇幸氏

### これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成 5年（1993） | 明治時代のねぷたの台座の設計図が発見される。 |
| 平成 8年（1996） | 巨大ねぷたを復活させようと、市民有志による「立佞武多復元の会」が結成される。 |
| 平成10年（1998） | 駅前通りにて立佞武多運行に伴い支障となる電線路移転工事等を始める。 |
| | 夏まつりには「立佞武多」が90年ぶりに市街地を約200m運行された。 |
| | 東京ドームで「活彩あおもり大祭典」が開催され、立佞武多を出展する。 |
| 平成11年（1999） | 夏まつりには「立佞武多」が中心市街地を約1.5km運行された。 |
| 平成15年（2003） | 電線、電話線、信号機などの障害物の埋設・移設が完成する。 |
| 平成16年（2004） | 立佞武多の館が完成する。 |
| 平成17年（2005） | 夏まつりには「立佞武多」が中心市街地を一巡できる約2.5kmが運行される。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 蘇る巨大ねぷた（立佞武多）

明治時代、勇壮な姿で練り歩き、隣町からも見えたという伝説の巨大ねぷただが、電気の普及により張り巡らされた電線に追われるように姿を消しておよそ一世紀。

平成8年、当時の写真一枚を元に五所川原市の有志達が高さ20m強のねぷたを復元させ、「立佞武多」と命名。

当初はその大きさゆえ河川敷内でしか運行できなかったが、従来の祭りのように町中でねぷたを運行させたいという地元の機運が高まり、立佞武多運行の支障となる市内の電線類の地中化などを実現。平成10年、市民、行政が一体となった取り組みが実り、巨大ねぷた「五所川原立佞武多」が復活。約一世紀ぶりに市内を運行した。


明治時代後期の巨大ねぷた



金魚ねぷた製作体験


囃子組による実演

### 立佞武多に会える館

立佞武多の館では、大型立佞武多3台を常時観覧が可能。

併設の製作所では巨大ねぷたの制作現場の見学や、金魚ねぷた等の津軽民工芸の制作体験ができる。

また、立佞武多の囃子方として、祭りを盛り上げたいという熱意をもった五所川原市の有志が集まった囃子組みが、五所川原ねぷた囃子の練習を行うとともに、月数回、ねぷた囃子の実演を行っており、観光客にも大好評。

観光拠点施設として、また市民交流施設として中心市街地活性化にも大きく貢献。


立佞武多の館

### 立佞武多 全国へ発信！

圧倒的な高さを誇る「立佞武多」を、東京ドーム、東京・丸ビル内及び福岡・キャナルシティ博多の広場等に次々と出陣させ展示することで、五所川原立佞武多を広くPR。

各地で観衆を圧倒し、誘客に大いに貢献。


東京ドームにそびえ立つ「立佞武多」


丸ビルに出陣した「立佞武多」

**問い合わせ先**

○五所川原市経済商工観光課
Tel：0173－35－2111　http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp

○立佞武多の館
Tel：0173－38－3232　http://www.tachineputa.jp

## 菜の花による町おこしで観光振興

# 10 横浜（よこはま）

（青森県横浜町）

### 注目 ポイント ！

○ 作付面積日本一の「菜の花」を最大限に活用し観光地へ。

○ 住民、生産者、産業団体、行政が協働して観光振興を推進。

**菜の花フェスティバル客数が約4,500人から約26,000人に！**
**（平成3年） （平成18年）**



菜の花が咲き誇る風景

### ◇◇ コラム ◇◇

野坂氏が町観光協会会長として就任以来、観光振興策の一つとして菜の花フェスティバルの開催、「日本一の菜の花サポーター」の育成、また平成16年12月に町長就任以降も秋田県能代市（旧二ッ井町）や大館市（旧田代町）との観光・スポーツ交流を展開している。



前・観光協会会長
（現・横浜町長）
野坂　充氏

### これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成　3年（1991） | 第1回菜の花フェスティバルが開催される。 |
| 平成　6年（1994） | 地場産菜種油「なたね一番搾り」、地酒「菜の花紀行」を発売する。 |
| 平成　8年（1996） | 横浜町の景観が「美しい日本のむら景観コンテスト」農林水産大臣賞を受賞する。<br>菜の花フェスティバルを通じ秋田県能代市（旧二ツ井町）との交流が始まる。 |
| 平成　9年（1997） | 観光協会が、ボランティアガイド「菜の花サポーター」を結成する。 |
| 平成10年（1998） | （社）日本観光協会主催「第5回優秀観光地づくり賞」を受賞する。 |
| 平成11年（1999） | 町物産館「菜の花プラザ」（道の駅よこはま）がオープンする。 |
| 平成13年（2001） | 菜種油を活用した燃料製品開発を主とする「菜の花エコプロジェクト構想」が策定される。 |
| 平成14年（2002） | 「菜の花トラストin横浜町」が発足し「休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト」に取組む。<br>菜の花エコプロジェクトネットワーク主催による「第2回全国の菜の花サミット」が横浜町で開催され、全国から約300名が参加。 |
| 平成18年（2006） | 横浜町特産品加工センターが完成する。 |

## 主な取り組み

### 菜の花フェスティバルinよこはま

日本一の作付面積を誇る菜の花畑を活用した町おこしとして、住民、生産者、産業団体、行政が協働で実行委員会を組織し「菜の花フェスティバルinよこはま」を菜の花畑のど真ん中で開催。

菜の花畑に通路を刈り込んだ大迷路や「菜の花ロード」を駆け抜けるマラソン大会等が人気を呼び、毎年、県外客も含め大勢が参加。

平成18年で16回目の開催となる。

菜の花フェスティバルのイベントの一つ、「マラソン大会」







### 菜の花トラストin横浜町

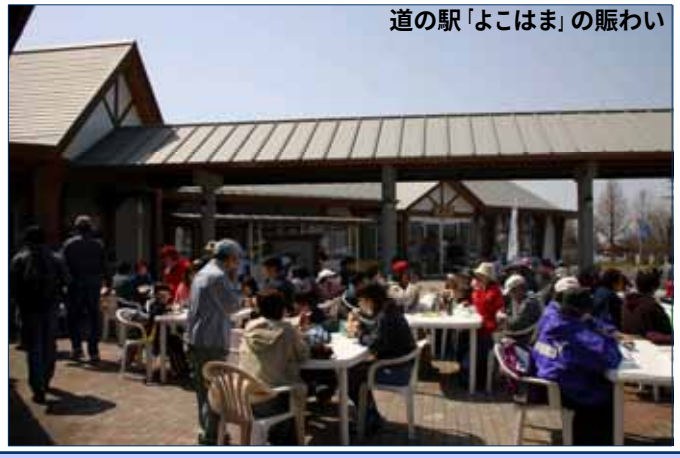
「菜の花トラストin横浜町」は、横浜町の日本一の菜の花を守り育てる目的に賛同する地元住民で構成され、「休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト」を毎年実施。当プロジェクトでは、子供から大人まで様々な年代の人が集まり、休耕地の整地やナタネ刈り、耕作作業などを実施。

### 菜の花を使った商品を数多く開発

商工会、農協、漁協、森林組合、婦人会を中心に「菜の花ドーナツ」など約100種類もの菜の花を使った商品を開発し、「道の駅よこはま」を拠点として通年販売。観光客等にも大好評。

さらに今年2月、地場産品消費拡大、地域振興を目的に特産品加工センターが道の駅に併設。現在、町の加工団体により菜の花など地場品を使った新商品の開発等が行われ、商品が拡充。

道の駅「よこはま」の賑わい



### 菜の花サポーター

菜の花開花期間中の5月を中心に、一般募集された地域住民により構成される「菜の花サポーター」が、町の各観光施設や菜の花フェスティバル会場付近などで、日本一の菜の花の魅力、横浜町の魅力を観光客に紹介。

日本一の菜の花サポーターの皆さん




**問い合わせ先**　○横浜町役場　産業建設課
Tel：0175－78－2111　http://www.yokohama.e-shimokita.jp/

外国人観光客の増加による温泉郷の活力。まち全体へ

# 11 はなまき 花巻

（岩手県花巻市）

## 注目 ポイント ！

○ 外国からの観光客受け入れが、新たな動きを呼び覚ます。

○ 温泉郷に訪れる観光客をまちなかへ、“宮澤賢治のまち”の観光振興。

**ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）実施を契機に、台湾からの観光客が倍増！**



雪の大沢温泉

## ◇◇ コラム ◇◇

明治29年、花巻で宮澤賢治が誕生。幻想的な「銀河鉄道の夜」をはじめ、「雨ニモ負ケズ」など多くの作品を残した。その根底にある問いかけに、今日の私たちは、立ち止まり深く考えなくてはならない。この深い魅力が、首都圏をはじめ多くの観光客を引きつけているものの、花巻市全体への広がりは今一歩であった。彼のふるさと花巻では、ひとつひとつの問いかけを種子として、まちづくりや地域活動の課題に取り組み、花々を咲かせようとしている。

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和６０年（１９８５） | 東北新幹線「新花巻駅」が開業する。<br>中心市街地の空洞化が懸念される。 |
| 平成 元年（１９８９） | 花巻駅周辺土地区画整理事業を実施する。 |
| 平成１５年（２００３） | どでびっくり市のイベントを開始する。 |
| 平成１６年（２００４） | 外客誘致の取り組みにより台湾からの観光客が倍増する。 |
| 平成１７年（２００５） | 市内若手経営者を中心に「花巻まちなか観光NPO」を設立する。<br>NPOが中心となって、足湯を設置する。 |
| 平成１８年（２００６） | 「いわて花巻空港エアポートライナー」の運行を開始する。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 外客誘致の取り組み

平成16年10月花巻温泉をメイン会場としてキャンペーンを実施。花巻市の外国人観光客は平成14年7,000人だったが、台湾からのグループ旅行により平成16年15,000人と倍増。VJCに参加した海外旅行業社が造成した東北への旅行商品1,500本。10,000人が各地を訪問。また大沢温泉では、湯治施設もある落ち着いた風情が注目を浴び、民放テレビや雑誌の取材が増加。



海外の旅行会社による視察

### 新たなトレンドへの対応

旅館やゴルフ場側はいわて花巻空港への臨時便による韓国からのゴルフ客受け入れ体制を整備。交通機関や宿泊施設の集積を活かし、県では広域観光ルートづくりにむけて取り組み、タクシー組合は空港との二次交通改善にむけてアクセス改善を図っている。宿泊施設から始まった取り組みが他業種や空港活用活動等へも波及。



いわて花巻空港エアポートライナー

### 各温泉街での創意工夫

花巻周辺は、雑穀の生産地。旅館では生産者と連携し、雑穀を活かした料理の開発に取り組み、郷土色を打ち出している。

観光協会によるバリアフリー情報の提供等、旅行形態の変化に対応し、高齢者に配慮。客室へのベッド設置による移動への配慮や顧客だけのくつろぎを重視し、客室への立ち入りを抑えるなど旅館毎に創意工夫。



雑穀を素材とした料理

### 温泉を使ったまちなかにぎわい

商工会を中心に「どでびっくり市」等のイベントを実施。賢治関連等の観光施設や、区画整理や河川の遊歩道整備により中心街の魅力を向上を図るとともに、まちなかでの交流の場として、NPOを中心に志戸平温泉のお湯を使った足湯を設けるなど市民参加でにぎわいを創出。



どでびっくり市の様子

**問い合わせ先**


○花巻市観光課
Tel：0198－24－2111（代表）　http://www.city.hanamaki.iwate.jp
○花巻観光協会
Tel：0198－22－5557　http://www.kanko-hanamaki.ne.jp
○花巻まちなか観光NPO
Tel：0198－24－7111

民話のふるさと＋グリーンツーリズム＝笑顔とゆとりと地域の熱意

# 12 とおの 遠野

（岩手県遠野市）

## 注目 ポイント ！

○ 民話のふるさととして、景観に配慮したまちづくり、南部曲り家（古民家）の保存。遠野物語の語り部の育成・伝統の承継。

○ グリーンツーリズムを推進・炭焼きや乗馬育成の体験を提供。

**観光客数が約140万人（H13）から約160万人（H16）に！**
**地域の人々の参加、まちの活力につながる！**



遠野ふるさと村

## ◇◇ コラム ◇◇

観光協会長として民話のふるさとをプロデュース、民話を活用しつつ継承を図る。観光客の新たなニーズに応えるべく、いち早くグリーンツーリズムに取り組む。遠野の伝統や特産品の魅力として食文化を提案。遠野の観光とまちづくりの舵取り役である。



遠野市観光協会
会長　多田　良城氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５９年（１９８４） | 伝承園を開園。昭和61年とおの昔話村オープン。（語り部の実演） |
| 昭和６２年（１９８７） | 「柳田國男ゆかりサミット」を開催。地元における研究活動の契機となる。 |
| 平成　６年（１９９４） | 民俗学研究の情報発信と地域活性化をめざし「遠野物語ゼミナール」を毎年開催する。 |
| 平成　７年（１９９５） | 東北地区グリーンツーリズム・フィールドスタッフ・ミーティングを開催する。 |
| 平成　８年（１９９６） | NPO法人遠野物語研究所を設立する。（民族学等の研究と交流） |
| | 遠野ふるさと村が開村する。（グリーンツリーズム実践の施設） |
| 平成１３年（２００１） | 新総合計画（遠野未来デザイン）策定。個性豊かで活力と潤いに満ちた地域づくり。 |
| 平成１５年（２００３） | 「日本のふるさと再生特区」認定。どぶろくのほか、農家宿泊や農業経営に関する特例を盛り込む。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 「民話のふるさと遠野」

現存する千葉家の他、伝承園とふるさと村では南部曲り家を移築･保存するとともに、民話のふるさととしてまちの景観に配慮した町並みづくりに取り組む。昔話村の語り部ホールでは、物語を実演。語り部教室での語り部育成や、語り部のボランティア活動等を実施。


語り部実演


そば打ちの体験メニュー

### 活発なグリーンツーリズム活動

「西の安心院（大分）、東の遠野」といわれるほどグリーンツーリズム活動が活発。農家グループによる炭焼きや郷土芸能のしし踊り体験、ふるさと村での体験メニューや馬産地の伝統をくむ乗馬･厩務員体験、リンゴ収穫体験などを実施。道の駅「遠野風の丘」ではグリーンツーリズム情報を提供。

### 特産品開発と地域の活性化

遠野市周辺ではホップの生産が盛んであり、地ビールや大手化粧品会社と協力し香水の開発に結びつける。新しい特産品の開発は、観光客に好評であることに加え、農業や製造業のやる気を醸成。



遠野の商品

### 特区制度の活用と交流促進

「どぶろく」特区として有名。農家での宿泊や農業経営に関する特例もある。都市部の学生との連携等、グリーンツーリズムを通じた都市農村交流に取り組む。


特区第一号のどぶろく

**問い合わせ先**

○遠野市ふるさと交流課
Tel：0198－62－2111(代表)　http://www.city.tono.iwate.jp
○遠野市観光協会
Tel：0198－62－1333　　http://www.tonotv.com/members/kankoukyoukai

豊かな自然・歴史に彩られた観光都市

# 23 会津若松・喜多方（福島県会津若松市、喜多方市）

## 注目 ポイント ！

○ 二次交通整備による流動性向上・キャンペーンとの積極的な協働体制。

○ 歴史的なたたずまいを継承した街並み・まちづくりと郷土料理の魅力。

**平成14年より年間観光入込客数約1,600万人以上を継続中。**
**キャンペーン中の会津全域の観光客数30万人増加！**
**（H16夏期　476万人⇒ H17夏期　507万人）**



会津若松市のシンボル鶴ヶ城

## ◇◇ コラム ◇◇

20数年前、帰郷した地元七日町通りは「シャッター通り」と化し、最悪の状況であった。渋川氏は、なんとか活性化の糸口を探ろうと友人たちと活動を開始し、歴史的建物を保存しながら、城下町らしい特色ある街並みの再生が、賑わいの創出につながると確信。最初は、旧商店街の人々から煙たがられたが、根気強く説得。改修第1号の茶屋「やまでら」を成功させ、事業を軌道に乗せた。

現在は「株式会社まちづくり会津」の代表として活躍し、会津地方の活性化に力を注いでいる。



観光カリスマ
渋川　恵男氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和62年（1987） | 喜多方ラーメンの同業者団体として「老麺会」が発足する。 |
| 平成　3年（1991） | 「会津そばトピア会議」が誕生。 |
| 平成　6年（1994） | 七日町通りまちなみ協議会を設立する。 |
| 平成　9年（1997） | アネッサクラブを設立する。 |
| 平成10年（1998） | 株式会社まちづくり会津を設立する。 |
| 平成13年（2001） | 史跡若松城跡　干飯櫓・南走長屋復元オープン。 |
| | まちなか周遊バス「ハイカラさん」の運行を開始する。 |
| 平成14年（2002） | 長期総合計画「会津まちづくり物語」を策定する。 |
| | 「全国SLサミットin会津」を開催する。 |
| | 「会津ぐるっとカード」の発売を開始する。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 商店街活性化

七日町通りまちなみ協議会は「大正浪漫調のまちづくり」による観光客誘致を実施。歴史的な建造物を保存した特色ある商店街を目指し、商店主に改修を説得。建物所有者にはテナント入居者の確保、テナント入居者には希望する外観の建物を提供。

また、商店街の婦人による「アネッサクラブ」は、「4つ（茶、荷物、いす、トイレ）のどうぞ運動」等のユニークな活動により、街おこしを牽引。



七日町通り

### 会津ディスティネーションキャンペーンの実施



会津ぐるっとカード

ハイカラさん



平成17年に行政･観光業者･交通機関が協力し、キャンペーンを展開。飲食店等割引付きカード「会津ぐるっとカード」販売、レトロ風ボンネットバス「ハイカラさん」やSLの運行、各種イベント開催により、会津全域で30万人の観光客が増加。継続的な活動へ。

### 蔵の町･喜多方

醸造業が盛んで、「男40にして蔵の一つも建てられないようでは…」という喜多方市、今日でも2,600軒の蔵が残る。昭和40年代、蔵はその役割を終え取り壊されはじめたが、地域有志が保存･移転を開始。観光やビジネスとの連携、研究者との協力、観光案内所への転用等、工夫をこらした保存活動を継続。



蔵の町喜多方

### 会津地方の食

鰊や鱈の保存食を多く使う会津料理。山椒や山菜を漬けこんだ郷土料理や、観光カリスマ唐橋氏を中心とした会津そばトピア会議の活動により有名となった会津そば等を新たな名物として打ち出している。

喜多方ラーメン目当ての観光客も多く、「老麺会」は、加盟店のマップを作成。



喜多方ラーメン

**問い合わせ先**

○会津若松市観光課
Tel：0242－39－1251　http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp
○会津若松観光物産協会
Tel：0242－24－3000　http://www.aizukanko.com
○喜多方市観光課
Tel：0241－24－5211　http://www.city.kitakata.fukushima.jp/8/index.html
○喜多方観光協会
Tel：0241－24－5200　http://www.kitakata-kanko.jp

# 22 銀山温泉（ぎんざんおんせん）

（山形県尾花沢市）

## 注目 ポイント ！

○ 大正ロマンを今に伝える町並みを積極的に保全し人気観光地へ。

○ 冬の銀山温泉を積極的にPRすることにより観光客数が年々増加。

**観光客数が約29万人から約34万人に！**
**（平成10年度） （平成17年度）**



冬の銀山温泉

## ◇◇ コラム ◇◇

銀山温泉は、NHK朝の連続テレビ小説「おしん」のロケ地として、また山形新幹線新庄延伸開業、そして藤屋の美人看板女将ジニーさんのCM出演に伴って一躍脚光を浴びた観光地である。

その大正レトロ漂う町並みや景観を守るために、産･官･学が一体となった温泉地づくりを実施しており、銀山温泉組合としても、ゴミの清掃や草刈り等、身近なところから環境整備を行うとともに、温泉組合のHPを開設した。これらの活動が実を結び、全国各地から観光客が訪れるようになった。



銀山温泉組合長
永沢 淳一氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５８年（１９８３） | NHK朝の連続テレビ小説で「おしん」が放送される。 |
| 平成 ５年（１９９３） | 「第1回 厳冬の銀山探検ツアー」を実施する。 |
| 平成 ７年（１９９５） | 銀山廃坑跡が国指定史跡に指定される。 |
| 平成 ８年（１９９６） | 銀山温泉女将会が発足する。 |
| 平成１３年（２００１） | 源泉をそのまま使用した「和楽足湯（わらしゆ）」が完成する。 |
| 平成１４年（２００２） | TVCMに藤屋若女将ジニーさんが出演する。 |
| 平成１６年（２００４） | 電線類地中化事業の完成により温泉街の景観が向上する。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 人・歴史・景観を大切にした観光地づくり

銀山廃坑跡が国指定史跡に指定されたことをきっかけに銀鉱洞周辺の散策道や公園を整備し、銀山温泉周辺を一体化とした観光地づくりを実施。銀鉱洞内部も歩道橋や照明設備の整備を行ったことにより、浴衣姿で坑内を一巡できる全国でも珍しい坑洞跡となった。


神秘的な雰囲気の銀鉱洞内部


和楽足湯（わらしゆ）

### 温泉街の景観に配慮した環境整備

狭隘な散策路と放置車両により景観が損なわれていたかつての銀山温泉。産・官・学が一体となり、大正ロマン漂う温泉街を積極的に保全するため検討を重ねた。

その結果、尾花沢市が電線の地中化やガス灯の設置、足湯広場「和楽足湯（わらしゆ）」等の整備を実施し、景観に配慮した環境整備が図られた。

### 日本の心を大切にする若女将

公共広告機構のCM「ニッポン人には、日本が足りない。」のキャッチフレーズで一躍脚光を浴び、銀山温泉の名を全国に広めた米国出身の若女将ジニーさん。

銀山温泉女将会発足後には発起人の一人として女将会を発展させる。女将会では副会長を務め、女将会の仲間とともにゴミ拾いや橋に花を飾る等の活動を日々繰広げている。

最近では体の不自由な方にもわかりやすいサービスを心掛けようと、手話による勉強会を毎月実施する等、全てのお客様に対しさりげない心配りを行うよう努めている。


銀山温泉女将会　副会長
藤屋若女将　藤 ジニー さん

### 厳冬の銀山探検ツアー

尾花沢山の会事務局長が冬の登山訓練の際に偶然銀山廃坑跡の神秘的な氷筍（ひょうじゅん）を発見したのをきっかけに、山の会事務局が中心となり、尾花沢市が主催する「尾花沢雪まつり」にあわせて銀山探検ツアーを実施。

銀山温泉ではツアー客の休憩及び昼食場所を提供。


銀山探検ツアー　　氷筍

**問い合わせ先**

○尾花沢市役所　商工観光課
Tel：0237－22－1111　http://www.city.obanazawa.yamagata.jp
○銀山温泉組合　http://www.ginzanonsen.jp

# みずはの小道 「フットパス」を歩いて地域を再発見

## 21 長井（ながい）

（山形県長井市）

### 注目 ポイント ！

○ 最上川の美しい自然や、沿川の魅力的な場所を「フットパス」でつなぎ、歩き主体の観光ルートを設定。

○ まちなかのフットパスも設定。歴史や文化を体感できるようにした。

**『歩く観光』で誘客が、約73,000人から約91,000人に増加！**
**（平成14年） （平成17年）**



最上川のフットパスを散策

### これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成11年（1999） | 第1回もとまち青空フェスティバルが開催される。 |
| 平成15年（2003） | ながいフットパスワーキンググループが発足する。<br>映画「スウィングガールズ」ロケ始まる。<br>第1回ながい雪灯り回廊まつりが開催される。 |
| 平成17年（2005） | 「ながいフットパスワーキンググループ」を「ながいフットパス推進会議」に名称を変更する。<br>ながいフットパスガイドmap並びに案内看板を作成する。 |
| 平成18年（2006） | 全国フットパスシンポジウムinながいが開催される。 |

### ◇◇ コラム ◇◇

青木氏が帰郷した4年前の長井は、山形県内最悪の空き店舗率のなか、市民ギャラリーや蔵美術館が相次いで閉館し、衰退の様相を呈していた。そんな状況の下、長井のまちの原点といえる、最上川の大自然や水辺空間と、舟運文化遺産、歴史的建築、食文化を、フットパス（歩行者用の小径）でつないでいく構想に、志を持った若手を中心にして官民が結集した。市民主体のイベント開催や、水路や蔵などの環境・景観改善、商店街のおもてなしの努力によって、衰退打開にむけた確かな手ごたえを感じ始めている。



長井まちづくりNPOセンター
事務局長　青木　孝弘氏

## 主な取り組み

### 充実の「満喫10コース」～フットパス～

「最上川発祥の地」の長井は、その昔、最上川の舟運により商業で栄えたまちで、昔なつかしい日本の風土を感じることができる。そんな美しい最上川とまちなかを結ぶ歩き楽しむこみち”フットパス”は、魅力的な観光ルートを観光客に提供。

本当の魅力を徒歩でゆっくり楽しんでもらうため、美しい川辺やまちなみ、せせらぎ水路、蔵、桜の名勝などを結ぶ10通りのフットパスコースを市民組織「フットパス推進会議」が提案。歩く楽しさを一層引き出す工夫として案内標識や木道・飛び石も設置。



飛び石の整備

### フットパスの魅力をランタンで演出

毎年7月には市民団体、NPO、商店街、行政が協力して「ながいランタンマーケット」を開催。フットパスコースの一部にも約1,000個のランタンを配して、幻想的な夜を演出。

また、通年誘客を目指し、冬季には毎年「雪灯り回廊まつり」を実施。まちなかフットパスにも約2,000個のスノーランタンを灯し、厳しい雪国の夜を市民による手づくりで楽しむ様々なイベントを各施設で開催。



ランタンマーケット

雪灯り回廊まつり



### もとまち青空フェスティバル

まちなかに市民を呼び戻そうと地元商店街・商工会議所主催で毎年9月下旬～10月初旬の日曜日に開催。幼稚園から大人までの音楽(吹奏楽)を中心とした商店街活性化イベント。会場はフットパスの一部で参加者は地域の魅力を再確認。



フェスティバル

### 映画「スウィングガールズ」でロケ地に

2004年9月公開映画「スウィングガールズ」のロケ地の一つになったため、市民有志が応援隊を組織しファンを受入れ。商工会議所では写真やサインの展示コーナーを設置。山形鉄道「フラワー長井線」では、映画イメージの車体デザインや、ガイドがロケ地等を説明する“スウィングガールズ列車”を運行。地域一丸で盛り上げた。




スウィングガールズ列車

問い合わせ先　○長井市商工観光課観光係
Tel：0238－84－2111　http://www.city.nagai.yamagata.jp/

# 20 さかた 酒田

（山形県酒田市）

## 注目 ポイント ！

○ 拠点整備により、観光地としての核を構築。
○ 外国人をもてなす環境の整備。

**酒田市の観光客数約110万人（平成14年度）から約238万人（平成16年度）に！**
**外国人観光客入込数が約2,500人（平成14年度）から約4,400人（平成17年度）に！**



山居倉庫とケヤキ並木

## ◇◇ コラム ◇◇

山居倉庫は現役の農業倉庫であり、長時間滞在する観光地ではなかった。また、旧家や寺院の所有する文化財は展示場所がなく、維持保存が危ぶまれていた。

市では、観光拠点と文化財展示の場所の整備に取り組み、趣旨に賛同した農協から、倉庫2棟を入手。夢の倶楽（くら）が完成。運営を酒田観光物産協会に委託。展示品のディスプレイは全国の大賞を受賞するなど、細部まで行き届いた運営が図られている。



酒田観光物産協会
会長 齋藤 成徳氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和51年（1977） | 酒田大火により、中心商店街の半数を焼失。市民の努力により2年間で復興する。 |
| 昭和58年（1983） | NHK連続テレビ小説「おしん」が放送される。 |
| 平成11年（1999） | 「国際交流サロン」を開設する。 |
| 平成15年（2003） | 「さかた海鮮市場」オープン。 |
| 平成16年（2004） | 「酒田夢の倶楽」オープン。 |
| | 「さかた街なかキャンパス」オープン。 |
| | 「酒田観光協会」と「酒田物産協会」が合併し、「酒田観光物産協会」になる。 |
| 平成17年（2005） | 酒田市他3町が合併し、酒田市となる。 |
| 平成18年（2006） | 「酒田まちづくり・まちなかサロン」を開設する。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）の特別賞として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 中心市街地の活性化

さかた街なかキャンパス等の空き店舗の活用や起業を支援。高速交通体系の整備を活用し、観光での交流促進のため施設整備も活性化対策の柱。風光と歴史的建物が残る酒田市は、景観法に基づき計画を策定し、景観に配慮したまちづくりに取り組む。


さかた街なかキャンパス


酒田夢の倶楽

### 新たな施設による観光客の増加

平成15年に酒田港に「さかた海鮮市場」を整備し、平成16年に山居倉庫のコメ保管用倉庫を改装した「酒田夢の倶楽」を整備。夢の倶楽は人形作家辻村寿三郎氏の作品展示、茶屋の復元、飲食・観光案内施設等で構成。2施設が中核となり誘客に貢献。完成前の市内年間観光客は110万人に対し、完成後は238万人。

### 海外からの観光客への配慮

NHK連続ドラマ「おしん」は海外でも人気があり、奉公先の舞台である酒田への外国人観光客が増加。イベントにおける外国語併記の案内看板、パンフレット等の作成や、国際化のための「国際交流サロン」を開設し、年に一度「国際交流サロンまつり」も開催。



国際交流サロンまつり

### 酒田歳時記まつり事業

港町酒田の四季折々の祭りや各種イベントを一年を通して実施し、県内外からの誘客を図る。酒田の伝統を活用し、酒田雛街道では、旧家等に残る雛人形を観光施設や商店街等で展示。また、外国人観光客向け資料も作成し、誘客を推進。


酒田歳時祭り

**問い合わせ先**

○酒田市観光物産課
Tel：0234－26－5759　http://www.city.sakata.yamagata.jp/kankou/
○酒田商工会議所
Tel：0234－22－9311　http://www.sakata-cci.or.jp
○社団法人酒田観光物産協会
Tel：0234－24－2233　http://www.sakata-kankou.gr.jp

19

おのがわおんせん

# 小野川温泉

（山形県米沢市）

## 注目　ポイント　！

○ 鉄道会社と旅行会社との連携により、小野川観光温泉「知」実行委員会を中心に観光の振興。小野川の魅力を全国に発信。

**首都圏をはじめとする県外からの観光客が増加に転じる。**
**約56,000人（平成13年度）から約77,000人（平成17年度）に！**


小野川温泉

### ◇◇ コラム ◇◇

小さな温泉街「小野川温泉」を魅力あるものにするため、佐藤氏は若手リーダーとして地域をまとめ「夢ぐりプラン」「そぞろ歩きお休み処」「どこでも出前」等数々の新たな試みを行い、短期間で小野川温泉を「そぞろ歩きができる温泉街」として全国から注目される地域に成長させた。



観光カリスマ河鹿荘代表　佐藤　雄二氏


小町の湯


霊泉･小野小町


霊泉･峰の薬師

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５６年（１９８１） | イベント中心に地域づくり行う。 |
| 平成　２年（１９９０） | 観光客の減少が始まる（～平成１３年） |
| 平成１３年（２００１） | 鉄道会社と旅行会社との若手勉強会よりハードからソフトのまちづくりが提案される。<br>この提案を受け、小野川温泉観光「知」実行委員会が発足。<br>「夢ぐりプラン（温泉手形）」「そぞろ歩きお休み処」「どこでも出前」をスタートする。 |

## 主な取り組み

### 夢ぐりプラン（湯めぐりプラン）

小野川の温泉旅館と共同浴場のうち3カ所が利用できる手形。手形は地元特産の独楽で、使用後、独楽の色付け体験が無料。

夢ぐり手形




### そぞろ歩きお休み処

各旅館共通の下駄を用意し、野点の傘下に腰掛け温泉気分を満喫。さらに朝市の開催、レンタサイクルの無料の貸出しも実施。


下駄で散策


出前ポイント

### どこでも出前

旅館や食堂での食事より、自然の中で食事をすることの気楽さや気持ちよさを感じてもらうため、最上川源流「大樽川」沿い等の出前ポイントで米沢ラーメン、そば等の出前を行う。冬季間は4基のかまくら内でも実施。

### 小野川温泉観光「知」実行委員会

小野川温泉の宿泊客は平成4年の28万人から平成13年に19万人に減少。そのような中、鉄道会社・旅行会社の若手勉強会から観光地開発を行いたいと小野川温泉にオファーがあった。そこで、地域を「知」り、観光に「知」恵を絞ろうと、佐藤氏を委員長とする旅館・商店の宿泊施設の若手経営者が中心となって『小野川温泉観光「知」実行委員会』が発足。

議論の末、温泉街の道路は旅館の道路、河川は旅館の中庭と考え、お客様にまち全体で楽しんで頂くまちづくりを行う。これにより平成14年から首都圏の宿泊客が増加。


委員会風景

**問い合わせ先**

○小野川温泉旅館組合
Tel：0238－32－2740　http://www.onogawa.jp/~ryokan/
○米沢市商工観光課
Tel：0238－22－5111　http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/

## 明治時代の鉱山繁栄文化を現代に再現

# 18 小坂（こさか）

（秋田県小坂町）

### 注目 ポイント ！

○ 明治の頃のモダンでハイカラなイメージを強調した地域のシンボル通り。

○ 国重要文化財ながらも、生きた芝居小屋として活用されている「康楽館」や、ルネッサンス様式の「旧小坂鉱山事務所」などの復現後、観光客数が増加。

**小坂町の人口約6,800人に対し、康楽館の年間入館者約85,000人**
**（平成17年4月）　（平成17年度）**



日本最古の木造芝居小屋「康楽館」

### ◇◇ コラム ◇◇

康楽館における芝居や舞踏の常設公演では、地域や芝居を愛する多くのボランティアの方々により、支えられている。「康楽館友の会」は歌舞伎大芝居のお手伝いや、施設周辺の清掃と環境美化活動を積極的に行っており、お客様を気持ちよく迎え入れ、感動と興奮をお土産に、そして再び小坂に訪れて頂けるよう努めている。



康楽館友の会
会長　小原　茂氏

### これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５９年（１９８４） | アカシアまつりを開催する。 |
| 昭和６０年（１９８５） | かつて鉱山額で全国一位だった小坂鉱山の厚生施設として作られた日本最古の木造芝居小屋「康楽館」の所有者である同和鉱業㈱が土地・建物を町へ無償譲渡。観光立町を目指す町と鉱山繁栄の時代への復興を願う町民の情熱により修復を開始。 |
| 昭和６１年（１９８６） | 康楽館が秋田県指定有形文化財に指定される。外観と内装をほぼ建築当初の構造そのままに修復が完了する。7月2日のオープンとともに常設公演が始まる。 |
| 平成　７年（１９９５） | 康楽館が面する通りを明治百年通りと名付け、明治期のモダンでハイカラなイメージを強調した道路が整備される。 |
| 平成１１年（１９９９） | 康楽館入館者数が100万人を超える。 |
| 平成１３年（２００１） | 康楽館の隣接地に、明治の建築様式を残す旧小坂鉱山事務所が移築復元される。小坂鉱山病院記念棟と洋風園舎天使館も改修され、明治百年通りを中心に歴史文化ゾーンが完成する。 |
| 平成１４年（２００２） | 康楽館、旧小坂鉱山事務所が国の重要文化財に指定される。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 明治百年通り

明治の頃の華やかな町並みを現代に再現。アカシア並木のこの通りは、貴重な文化的建造物が建ち並びモダンでハイカラなイメージとなっている。

癒しの空間、そして文化の拠点として親しまれているこの通りで、ボランティア団体が積極的に美化活動に取り組んでおり、多くの観光客を迎え入れている。


多くの観光客で賑わう明治百年通り


文化遺産でもある芝居小屋内部

### 国重要文化財　康楽館

建物老朽化と機能低下により、興行が中止されていた康楽館。所有者から基金とともに土地･建物を譲り受けたことを機に町が修復に着手。

修復にあたり、著名な俳優、歌舞伎役者など多くの方々の助言もあり、町民のまちづくりに対する意気込みが高まった。町と住民の一体となった整備目標のもと、当時の面影そのままに復活。

### アカシアまつり

明治百年通りのほか、町に群生するアカシアは約300万本といわれ、まさに緑の海に浮かぶ町。

町中がアカシアの甘い香りに包まれる毎年6月、町民手作りのアカシアまつりを開催。

通りを歩行者天国として開放し、露店やイベントも盛り沢山に。多くの観光客が来訪。



平成18年で23回目を数えるアカシアまつり

### 国重要文化財　旧小坂鉱山事務所

明治からおよそ一世紀の間、現役事務所として機能していたが、隣接する製錬所の拡張のため解体することに。そこで、近代化遺産を活用したまちづくりを進めていた町が建物を譲り受け、明治百年通りに移築復元。

保存だけでなく積極的活用を図り、特に華やかなドレスを貸出し情緒あふれる背景を舞台に写真撮影できるモダン衣装室が好評。


明治38年創建の小坂鉱山事務所


好評の「モダン衣装室」

**問い合わせ先**

○小坂町産業課観光商工班
Tel：0186－29－3908　http://www.town.kosaka.akita.jp/

○康楽館
Tel：0186－29－3732　http://www.town.kosaka.akita.jp/kourakukan/kourakukan.htm

# 17 田沢湖・角館（たざわこ・かくのだて）

（秋田県仙北市）

## 注目 ポイント ！

○ 秋田新幹線、秋田自動車道開通効果の定着後、近年、映画・TVの舞台としてメディア露出や、「体験学習」の受入れなどにより観光客が再び増加。

**観光客数が約480万人から約630万人に増加！**
**（平成8年） （平成16年）**



角館さくら祭り

## ◇◇ コラム ◇◇

佐藤氏は、角館町商工観光課でフィルムコミッションの設立に携わり、周辺町村や県内ロケの支援体制づくりに奔走し、人気映画ロケの誘致に成功。その後も映画、TV、CMの舞台として数多く取り上げられ角館、田沢湖の魅力を全国に広め、横ばい傾向だった観光客数の回復につなげた。

合併後も、まちづくりや体験学習など各地の団体と連携して、観光客を「10年後に1,000万人」という目標を掲げ、先頭に立って活躍している。



仙北市観光課長
佐藤　強氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和49年（1974） | 角館シダレザクラ153本が国指定天然記念物に指定される。 |
| 昭和50年（1975） | 桧木内川のソメイヨシノ約2km区間が国名勝に指定される。 |
| 昭和51年（1976） | 角館武家屋敷約7haが重要伝統的建造物群保存地区に選定される。 |
| 平成　9年（1997） | 秋田新幹線開業（東京～田沢湖間　2時間57分）、秋田自動車道が全線開通する。 |
| 平成14年（2002） | 「かくのだてフィルムコミッション」設立。<br>映画、ドラマ、旅番組、CM等の舞台となり全国的なPR効果大。 |
| 平成17年（2005） | 田沢湖町、角館町、西木村が合併し「仙北市」誕生する。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 「心休まる道」　武家屋敷通りの整備復元

武家屋敷が重要伝統的建造物群保存地区に選定され修理修景が進んだことから、知名度が上がり観光客のほか交通量も増加。そこで県の代替路整備を契機に、学識者・関係機関・地区町内会等からなる検討会を経て、歴史的町並みを整備・復元。さくら祭や秋の「お祭り」では歩行者専用にしてイベントも開催。

藩政時代の落ち着いた佇まいが映画やTVで度々全国放映されるなど、四季を通じて観光客が訪れている。



角館武家屋敷通り



「歴史案内」

### 「パンフレットには載ってない」　歴史のまちを御案内

まちづくり団体が期間限定のイベントとして始めたものを組織化し、「かくのだて歴史案内人組合」を設立。観光客に武家屋敷や蔵が多く残る商人町の歴史、風土など観光情報誌に無い魅力を加えて案内。冬期は武家屋敷で囲炉裏を囲んでの「昔語り」を加えたり、観光ツアーに組み込まれるなど、利用者は10年目で5万人。

### 「花紀行」観光シーズンの幕開け

旧3町村には角館の桜、田沢湖町の水芭蕉、西木村のカタクリと3つの花の名所があり、地元団体が環境整備や花祭を実施。また、合併前から広域観光協議会が田沢湖乳頭温泉～JR駅～3地区を巡る「花紀行バス」を運行。

合併後は各地の開花状況、アクセス案内等の情報を一体的に提供するHPを開設。H18は過去最高の人出を記録。



刺巻湿原の水芭蕉群生地

### 大人も子供も「大事なこと」が体験できる

田沢湖地区は「体験型」修学旅行の先進地区。田植え・稲刈り、林業、酪農、伝統工芸など多彩な受入体制が好評。中学生を中心に北海道・東北・首都圏から学生が多数訪れ、数年先まで予約が埋まる。また古い木造分校を復元し写真展、山菜教室、音楽会等を「授業」として開催する「潟(かた)分校」には木造校舎で学んだ中高年世代が懐かしさを求めて訪れ、田沢湖と角館を巡る観光バスも運行。

これらは、全国的にも例の少ない、一つの町で2人も選ばれた「観光カリスマ」（田口久義氏・佐藤和志氏）を中心に地域が協力し運営。スキー客の落込みが激しかった同地区の観光客数増加に大いに貢献。



農業体験の田植え

**問い合わせ先**　○仙北市産業観光部観光課
Tel：0187－43－3352　http://www.city.semboku.akita.jp/

16

なるこおんせんきょう

# 鳴子温泉郷

（宮城県大崎市）

## 注目　ポイント　！

○　まち歩きの楽しさと農作業体験を取り入れた活性化に取り組む。
○　良質な温泉と医療機関との連携により健康づくりに貢献。

**継続的に約200万人以上の観光入り込み！（H16、217万人）**



鳴子峡

### ◇◇　コラム　◇◇

一店逸品運動の中心となる鳴子の元気集団“でっぺくらぶ”の阿部会長。全国各地で活性化のアドバイスをしている野口智子先生（ゆとり研究所長）の話に「今までとは違う」と感銘を受け、鳴子に招待。現在のメンバーの皆さんと運動に着手した。そのなかで会長の逸品、「山菜押し寿司」が生まれた。



でっぺくらぶ会長
阿部　眞也氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成11年（1999） | 国立療養所の経営移譲を受け、自治体立委譲病院・全国第2号として町立鳴子温泉病院（現　大崎市民病院鳴子温泉分院）が設立される。 |
| 平成13年（2001） | 鳴子町一店逸品運動開始。中心商店街の活性化と観光客との交流を図る。<br>「ほっとサロン」を整備する。 |
| 平成14年（2002） | 鳴子町観光協会で温泉療養部会設立宣言。<br>「湯めぐりチケット」による「街を歩けば下駄も鳴子」キャンペーンを開始する。<br>「ほっとサロン」での交流「ほっとフェア」を開始する。 |
| 平成16年（2004） | 鳴子ツーリズム研究会を設立する。<br>どぶろく製造や市民農園開設等の鳴子温泉郷ツーリズム特区が構造改革特区に認定される。 |

※当該地域は「わたしの旅100選」（平成17年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 体験型観光への取り組み

鳴子地区には日本こけし館があり、5,000体ものこけしを展示。こけし工房では、こけしの絵付けも可能。また、鳴子ツーリズム研究会は湯治客による田植え（農業体験）と湯治を組み合わせた「田植え湯治」を企画。田植えに留まらず、種まきから脱穀に至る稲作の一連の農作業毎に開催。


絵付け


湯めぐりチケット

### まち歩きの魅力を高める

温泉郷五つの地区と多様な泉種を楽しめる「湯めぐりチケット」は、商店街での割引や特典が付加されている。

宮城大学や鉄道会社等との連携により、活性化事業として始められた取り組みが、まちを象徴するフレーズ「街を歩けば下駄も鳴子」として定着。日帰り客等の誘致に繋がった。

### 温泉療法で健康づくり

温泉の泉質が他種類にわたる特色を生かし、温泉療法プランとして旅館が企画・実施。温泉療養と鳴子温泉分院の診療やリハビリテーションの指導を受ける体制を整備。他にも予防医学としてのドック受検に応じる介護ヘルパーへの取り次ぎ等、温泉と医療の連携を図る。


温泉療養

### 一店逸品運動の取り組み

商店街の一店ごとに、他に真似できない味や技量の目玉商品を作りだして販売。鳴子のお土産にもなっている。

地域や観光客との交流の場として店舗を活用した「ほっとサロン」を整備。商店街の方々が交替でおもてなし。お茶、逸品の話題とまごころに「ほっと」する交流を提供。


ほっとフェア


**問い合わせ先**

○大崎市鳴子総合支所観光農林課
Tel：0229－82－2026　E-mail：n-kanko@city.osaki.miyagi.jp
○鳴子温泉郷観光協会
Tel：0229－82－2102　http://www.naruko.gr.jp

# 15 登米（とよま）

（宮城県登米（とめ）市）

## 注目 ポイント ！

○ 明治の建造物を活かして街全体に明治の香りを醸し出す。

○ CM、テレビ等の舞台にも取り上げられ広範囲に街をPR。

**観光施設への入込客数が約67,000人から約73,000人に！**
**（平成12年） （平成17年）**



教育資料館（旧登米高等尋常小学校）

## ◇◇ コラム ◇◇

明治の建物が多く残る旧登米町は、テレビCMやテレビの人気アニメ等の舞台に取り上げられ、多くの観光客が訪れるようになった。特に近年は、南三陸の観光コースの一つとして注目されるようになり、修学旅行、小・中学校の校外学習など団体旅行客の増加が目立っている。

今後は街並みの整備等、より一層明治のまちづくりが進められる予定。



（株）とよま振興公社
登米町歴史資料館館長
高橋 洋氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５６年（１９８１） | 旧登米高等尋常小学校1号校舎、国の重要文化財に指定される。 |
| 昭和６０年（１９８５） | 北上川沿川の4町（登米町・東和町・中田町・津山町）で、広域的かつ総合的な地域振興を図るため、みやぎ北上連邦を建国する。<br>「とよま玄昌石（株）」を設立する。 |
| 昭和６２年（１９８７） | 警察資料館、玄昌石の館、壹番館が開館する。<br>旧登米高等尋常小学校校舎修復工事始まる。 |
| 平成 元年（１９８９） | 懐古館増築工事が完了する。<br>旧登米高等尋常小学校修復工事が落成する。 |
| 平成 ３年（１９９１） | 教育資料館・水沢県庁記念館がオープンする。 |
| 平成 ７年（１９９５） | とよま玄昌石（株）を「株式会社とよま振興公社」に社名を変更する。 |
| 平成 ８年（１９９６） | 伝統芸能館「森舞台」がオープンする。 |
| 平成 ９年（１９９７） | （株）とよま振興公社が町の観光施設などの管理運営業務を開始する。 |
| 平成１２年（２０００） | 観光物産センター「遠山之里」オープンする。 |
| 平成１７年（２００５） | 登米町閉町。登米市が誕生する。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 明治の香り漂う登米～みやぎの明治村～

明治の貴重な建造物と調和したまちづくりにより創出された「みやぎの明治村」。登米には、国の重要文化財に指定されている教育資料館等貴重な建造物が数多く残されている他、一般住宅にも江戸～明治期の住宅が多く存在。

それらを保存し、活かすまちづくりを目指し、学識者や地元住民・登米町が協議会を発足。産官民一体となった取り組みにより、明治の香り漂う観光エリアを創出し、多くの観光客を集客。



県営登米前舟橋住宅



学校給食体験教室

### 学校給食体験教室

明治21年に建てられた「旧登米高等尋常小学校」の校舎を利用して、平成16年から「学校給食体験」を開始。



コッペパン、鯨の竜田揚げ、カレーシチューなど、来訪者は懐かしい昭和30年代のメニューを体験することが可能。

### 森舞台における薪能

宮城県無形民俗文化財に指定されている登米薪能は、仙台伊達藩で演じられていた金春大蔵流(後に大倉流)を登米伊達家が取り入れたもの。登米能を今に伝えるのは町内外の住民の幅広い年代層で構成するアマチュアグループ。

能楽を通じて人づくりを行い、登米秋まつり(9月)の宵祭りの日、森舞台で薪能として演能し、町の活性化に寄与。



登米薪能



遠山之里

### 遠山之里

みやぎの明治村、旧登米町の観光拠点として平成12年に総合施設「遠山之里」をオープン。

登米のあぶら麸や登米味噌等の地域ならではの品を販売する他、とよま物産協会が、登米町内に住む主婦を中心に、会社員や教員退職者等による、街の歴史建造物をガイドするサービスを実施。

**問い合わせ先**


○宮城県登米市産業経済部商工観光課
Tel：0220-34-2734　http://www.city.tome.miyagi.jp
○株式会社　とよま振興公社
Tel：0220-52-5566　http://www.toyoma.on.arena.ne.jp

# 14 気仙沼（けせんぬま）

（宮城県気仙沼市）

## 注目 ポイント ！

○ 日本初の「スローフード都市」宣言が、多様な広がりを見せる。

○ 漁村と山村、地方と都市、地道な活動の継続が交流の和を広げる。

**夏期の入り込みを中心に観光客数が約181万人から約221万人に増加！**
**（平成7年） （平成16年）**



気仙沼の風景

## ◇◇ コラム ◇◇

理事長の菅原さん。市内で伝統のある造り酒屋を経営している。新幹線や高速道路の拠点から遠く、仙台までの所要時間は2時間半。このため、未来のふるさとを思い、気仙沼の豊かな食の恵みを活かし、各地との結びつきを強め、真に豊かなまちづくりに取り組んでいる。



スローフード気仙沼
理事長　菅原　昭彦氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成 元年（1989） | カキ養殖業者を中心とした「牡蠣の森を慕う会」と水源の山村地区住民の協働による植林活動を開始する。 |
| 平成　8年（1996） | 東京都目黒区のイベント「第1回目黒のさんま祭り」にさんまを提供する。 |
| 平成13年（2001） | 「食のまちづくり協議会」を設立する。宮城県「おいしい地域づくり事業」指定。 |
| 平成15年（2003） | 日本初の「気仙沼スローフード」都市を宣言する。 |

## 主な取り組み

### 海と森の交流

旧唐桑町のカキ養殖業者が中心となり「牡蠣の森を慕う会」を結成。水源地の隣県室根村の植林を毎年継続。山の子供たちに海の養殖作業を見学させ、森と海と生き物との関係を体験学習。森林の保全や環境保護の意識を醸成。


植林時の様子

### 地方と都市の交流

東京都目黒区の「目黒のさんま祭り」が恒例化。生産地の宣伝から始まったが、自治体同士の交流に発展し、同区内の修学旅行生を受け入れ、水産加工や養殖作業の体験を実施。体験メニュー化の取組みは、地元の漁業関係者やNPOが主体となって実施。


さんま祭り

### 日本初 「スローフード都市」 宣言


気仙沼魚市場

気仙沼の「スローフード都市」宣言の精神とは、料理そのものだけに関心を持つのではなく、生産から口に運ばれるまでの過程についても思いを巡らし、生活の中で育まれてきた食を次世代に伝え、個性的で魅力あるまちづくりをしようというもの。多様性を認めあい、心豊かな人間性を育み、自然と調和する住みよいまちにしていくことを願うものである。

### 気仙沼のブランド化

商工会議所が中心となって、フカヒレに代表される「気仙沼」産品のブランド化に取り組むとともに、子供たちによる「プチシェフコンテスト」を通じて地域ぐるみで「食」の重要性を醸成。


プチシェフコンテスト


**問い合わせ先**

○気仙沼市産業部観光課
Tel：0226－22－3438　http://www.city.kesennuma.lg.jp
○スローフード気仙沼（気仙沼商工会議所内）
Tel：0226－22－4600

# 13 江刺（えさし）

（岩手県奥州市）

## 注目 ポイント ！

○ 江戸時代からの歴史的建造物「蔵」を現代に活かしたまちづくり。

○ テーマパーク（えさし藤原の郷）来訪観光客を中心商店街に誘導。

**江刺の観光入込客数が58万人から74万人に約3割増加！**
**（平成13年） （平成17年）**



えさし「蔵まち」の町並み

## ◇◇ コラム ◇◇

大河ドラマ「炎立つ」のメインロケ地であり、その後テーマパークとなった「えさし藤原の郷」は集客に成功した。そこで、わずか1kmしか離れていない中心市街地の活性化を図るために、江刺の歴史的文化財である「蔵」を現代に活かした観光客の誘導に取り組んでいる。



観光カリスマ
（株）黒船 代表取締役社長
綾野 輝也氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 平成 3年（1991） | 平成5年の大河ドラマが奥州藤原氏の興亡を描く。「炎立つ」に決定。綾野氏をはじめ、青年会議所、商工会議所、行政が一体となってロケ地誘致に取り組み、その後メインロケ地に選定される。 |
| 平成 5年（1993） | ロケに使ったセットを仮設ではなく、永久的なテーマパーク施設として「えさし藤原の郷」がオープンする。 |
| 平成 9年（1997） | 「えさし藤原の郷」が中心市街地の活性化にはつながらなかった事を憂い、ロケ地誘致に奔走した青年会議所メンバーが中心となって、江刺の歴史的遺産である「蔵」を活かした産業振興を目的に（株）黒船が設立される。 |
| 平成10年（1998） | 中心市街地の中町の中心に「黒壁ガラス館」がオープンし、蔵を再生した町並みの形成がスタートし、中心市街地に賑わいが戻り始める。 |
| 平成11年（1999） | 音をテーマにした「黒船オルゴール岩谷堂」がオープン。「ふるさとの川モデル事業」にも指定されている近隣を流れる人首川と川沿いの桜づつみで、中町界隈に「音、水、緑」の周遊空間「黒船スクエアー」が形成される。 |
| 平成18年（2006） | 江刺市が市町村合併により奥州市となる。 |



えさし藤原の郷

## 主な取り組み

### 蔵を守り活かしたまちづくり～黒船スクエアー～

「えさし藤原の郷」へ訪れる年間約30万人の観光客を江刺の中心市街地に誘導したい。地元の若手経営者11人が発起人となり、(株) 黒船を設立。

数多く残る「蔵」に着目し、「蔵」を守り活かしたまちづくりに向けた本格的な取り組みを始める。「蔵」を活用した第1号店として、「黒壁ガラス館in江刺」をオープン。

その後、音をテーマにした「黒船オルゴール岩谷堂」のオープンへ発展し、近隣を流れる人首川の整備や川沿いの桜づつみなど官民が協働で“音、水、緑”の周遊空間「黒船スクエアー」を創出。

「蔵」を守り活かすまちづくりが成功し、現在では「えさし藤原の郷」からの誘導ではなく、「黒船スクエアー」を目的に訪れる観光客も増え、賑わいをみせている。


黒壁ガラス館in江刺


ガラス館の賑わい

### 「蔵市」と「郷土芸能」で賑わい

黒壁ガラス館やオルゴール堂などの蔵をはじめとした蔵町モール (歩行者専用道) では、「蔵」の町並みと街路整備をきっかけとして、郷土芸能披露や地場の農産物を販売する「えさし蔵まち市」を地区商店街をあげて開催。

また毎週水曜午後の蔵まち「水曜市」では、地元の新鮮な野菜や、知名度が高くファンも多い江刺りんごを販売するなど、観光客へ「蔵のまち・江刺」と江刺ブランド商品を強く印象付けている。


「えさし蔵まち市」の賑わい

### 地域主導の「蔵」のまちづくり

蔵を活かした和風の商店街の形成のため、中町振興会、商店会関係者がつくる「中町まちづくり委員会」が、地域住民全戸の承諾を得て「中町まちづくり協定」を作成。蔵の保存はもちろんのこと、店舗や住宅にいたるまで新・増改築にあたっては「色調は白、黒、茶、屋根の形状、素材は和風」等と取り決め、地域住民一体の「蔵」のまちづくりを進めている。


「蔵」の再生状況


**問い合わせ先**

○奥州市江刺総合支所商工観光課
Tel：0197－35－2111
○江刺商工会議所
Tel：0197－35－2514　http://www.pup.waiwai-net.ne.jp/~ecci/

# 24 おおうちじゅく　ゆのかみおんせん
# 大内宿・湯野上温泉（福島県下郷町）

## 注目　ポイント　！

○ 衣食住を含めた大内宿の文化が活かされた観光地へ。
○ アスファルト舗装の撤去など、宿場町としての風情を再生。
○ お互いに労働力を貸し借りする「結い」という暮らしの知恵による観光振興。

**観光客数が約2万人から約80万人に！**
**（昭和60年）　（平成17年）**



茅葺き屋根が並ぶ大内宿の風景

## ◇◇ コラム ◇◇

大内宿結いの会は、茅葺き屋根をふく技術の継承や地域おこしなどを目指して結成し、大内宿保存会への協力を行っている。現在は「面倒くさいことをやっぺ」を念頭に、大内地区を流れる小野川の清掃など、様々なイベントや地域づくりの活動を実施する。吉村氏は「面倒なことをやるには多くの人の協力が必要だが、その中で地域のコミュニティができていくのです」と語る。



大内宿結いの会
顧問　吉村　徳男氏

## これまでの経緯

| | |
|---|---|
| 昭和５６年（１９８１） | 大内宿が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される。 |
| 平成　４年（１９９２） | 第1回「美しい日本のむら景観コンテスト」の文化部門で、農林水産大臣賞を受賞する。 |
| 平成　５年（１９９３） | 「下郷町大内宿防災会」が結成される。 |
| 平成　８年（１９９６）～<br>平成１２年（２０００） | 江戸時代の道の復元など、周辺の景観と調和した整備を実施する。 |
| 平成１０年（１９９８） | 大内宿結いの会が結成される。 |
| 平成１０年（１９９８） | 参勤交代で使われた下野街道を歩く「下野街道ファミリーウォーク」が開催される。 |
| 平成１１年（１９９９） | 「文化財（大内宿）を守る自主防災活動」が第4回「防災まちづくり大賞」の(財）消防科学総合センター理事長賞を受賞する。 |
| 平成１７年（２００５） | 大内宿が手づくり郷土賞（大賞部門）を受賞する。 |

※当該地域は「わたしの旅１００選」（平成１７年）として選定されたプランに含まれています。

## 主な取り組み

### 茅葺き屋根の葺き替え

会津街道の宿場町として栄えた大内宿には30余の茅葺き民家が立ち並ぶ。昭和56年に重要伝統的建造物群保存地区に選ばれ、住民からなる大内宿保存会を組織。保存会が中心となって大内宿の景観を守りながら、祭りや伝統行事などを継続。

平成10年には、地区の青年達が屋根葺きの技術の継承を目的に「大内宿結いの会」を結成。年に数件の屋根を村中の人が総出で葺き替えを実施。



結いによる茅葺き屋根の葺き替え



昔の風情を醸し出す土の街道と茅葺き屋根

### アスファルトを撤去して街道を復元

日本の原風景である茅葺きと土の道の風情を後世に残そうと、一度舗装されていたアスファルトを撤去し、大内宿の中央通りを昔の街道風に復元。土の道特有の優しさ、やすらぎを創出。埃を防ぐため水路の水を使った水撒きを行う光景も観光客に好評。

### 大内宿雪まつり

20年前から、ほとんど客の来ない冬期間を何とかしようと、地元の大内地区などでつくる実行委員会が主催で、町等の後援も受け、大内宿雪まつりを開催。

最初は頑張って雪像をつくっていたが、現在は茅葺屋根との調和がとれた雪灯籠を作り、手作りのお祭りを実施。



夏とは違った趣のある雪まつり



雪灯籠を作成した湯野上地区の方々

### 湯野上温泉も雪灯籠でお出迎え

大内宿から約6km、江戸時代から会津の奥座敷として人気を集め、湯治場や商人宿として賑わっていた湯野上温泉。南会津方面の観光拠点としても便利で、ここで宿泊し大内宿等の周辺観光へ出かける観光客も多い。また、当温泉で人気を集めているのが“ゆめぐり手形”。温泉民宿が構成する湯野上温泉湯めぐりの会が企画し、手形を利用すれば3ヶ所で入浴可能。手形はこけしの形をしており、使い終わったら手形に無料で絵付けができる。

さらに、4年前から大内宿雪祭りにあわせ、日本で唯一の茅葺き屋根の駅舎をもつ湯野上温泉駅に、大内地区の指導のもと雪灯籠を作って観光客をおもてなし。多くの観光客に好評。

**問い合わせ先**

○下郷町事業課産業振興班商工観光係
Tel：0241－69－1144　　http://www.town.shimogo.fukushima.jp/